

# 高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2008年4月9日

## 1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	古屋 将太
連絡先・所属など	NPO法人 環境エネルギー政策研究所 furuya_shouta@isep.or.jp
調査研究・研修のテーマ	エネルギーパラダイム転換のための政治的メカニズムに関する研究
研修先の機関・名称など	オールボー大学 開発と計画学部

## 2. 調査研究・研修結果の概要

今回の調査研究・研修は、紆余曲折を経て、デンマーク・オールボー大学PhDコース進学に向けての準備とPhD Projectの予備調査という位置づけとなりました。当初予定していた受け入れ先からキャンセルされ、他の可能性を探るなかでオールボー大学のAndrew Jamison教授から指導の快諾をいただき、高木基金の助成で2008年2月～3月にかけてJamison教授の講義に出席するとともに、PhD Projectの予備調査を行いました(オールボー大学には2008年5月に入学予定)。

Jamison教授の講義(「持続可能な発展の政治学」「科学論」)に出席し、欧州および米国の社会科学的環境研究の歴史と主要な理論を学ぶことができ、「変化志向の研究(Change oriented Research)」や「行動志向の研究(Action oriented Research)」という現代の社会科学的環境研究のスタイルを身につけることができました。また、オールボー大学のPhD Studentの情報共有ネットワークに加わることができ、その中で私と近いテーマ設定の学生と知り合い、今後協働して研究を行っていくことになりました。

PhD Projectの予備調査として、デンマーク南部のロラン島で地域エネルギー事業開発を行うBaltic Sea Solutionsを訪問し、インタビューを行いました。Baltic Sea Solutionsは、地域エネルギー事業開発のプロフェッショナル集団であり、これまでデンマークの地域エネルギー事業で典型とされてきた協同組合形式とはやや異なる手法をもちいていることがわかりました。また、スウェーデン南部のマルメ市で持続可能な都市開発を進めるマルメ市環境局とソーラーシティ・マルメ担当者を訪問し、インタビューを行いました。マルメ市は、100%自然エネルギーのモデル地区開発や大規模な太陽光・太陽熱の利用などを推進しており、それらは政治的イニシアティブが実現させた部分が大きいということがわかりました。

今後の展望としては、第一にPhD Projectでの研究のフォーカスをより明確にすること、第二にそのフォーカスに関連する先行研究をフォローすること(特に政治社会学的な環境研究)、第三に今回行った予備調査を手がかりとして、欧州・北欧で行われている地域エネルギー事業の事例をさまざまな前提条件のもとに情報収集することを考えています。

当初の計画から大幅にスケジュールがずれたため、現時点では対外的な発表実績はありませんが、今後PhD Projectを進める中で、今回の調査研究・研修で得られたデータ・知見を生かし、論文の投稿、国際会議での発表などを行っていきたいと考えています。また、学術的なアウトプットだけでなく、社会に「変化」を生み出すようなアウトプットも出していきたいと思いをしています。

### 3. 調査研究・研修の経過

- ・ 2007年9月17～18日 デンマーク・オールボー大学訪問
  - Frede Hvelplund教授の講義に出席
  - 開発と計画学部学部長Arne Remmen教授とPhDコース入学の相談
- ・ 2008年2月4日 デンマーク再入国
- ・ 2月7日～2月29日 オールボー大学にてAndrew Jamison教授の講義に出席
  - 修士課程プログラム：環境マネジメント&持続可能なエネルギー計画コースの講義
  - 木曜日：持続可能な発展の政治学 (Politics of Sustainable Development)
  - 金曜日：科学理論 (Theories of Sciences)
- ・ 2月17日～20日 デンマーク・ロラン島調査
  - ロラン島の地域エネルギー事業開発会社 Baltic Sea Solutionsを訪問
  - 代表のGunnhild Utkvine氏、エンジニアのJesper Krogh Jensen氏にインタビュー
- ・ 2月25日～27日 スウェーデン・マルメ市調査
  - マルメ市環境局のTrevor Graham氏を訪問、インタビュー
  - Western Harbour Bo01地区をフィールドワーク
- ・ 3月4日 オールボー大学・参加型計画論研究グループに参加
  - PhD Studentで構成される研究グループで「市民参加」についての情報交換を行う
- ・ 3月9日～12日 スウェーデン・マルメ市調査
  - ソーラーシティ・マルメ担当者Anna Cornander氏を訪問、インタビュー
  - マルメ市内の太陽光発電、太陽熱温水器設置施設をフィールドワーク
- ・ 3月14日 日本帰国

### 4. 調査研究・研修の成果

#### 【Andrew Jamison教授の講義に出席して】

私はこれまで日本の環境社会学を主に学んできたのですが、そこではきわめて重要であるにもかかわらず、欧州の社会科学的環境研究の動向がほとんど取り入れられていないことに不満を感じていました。今回、Jamison教授の講義に出席したことで、欧州および米国の社会科学的環境研究の歴史と主要な理論を学ぶことができ、「変化志向の研究(Change oriented Research)」や「行動志向の研究(Action oriented Research)」という現代の社会科学的環境研究のスタイルを身につけることができました。また、同様に社会科学的環境研究においてきわめて重要であるにもかかわらず、日本ではほとんど扱われていない政治社会学的アプローチについても、Jamison教授の講義に出席することで学ぶことができました。

#### 【オールボー大学PhD Studentとの交流】

オールボー大学には現在世界中から53人のPhD Studentが在籍しており、今回の研修で彼らと交流をもつことができました。彼らの情報共有のネットワークに加えてもらい、その中で私と近いテーマ設定の学生と知り合い、今後協働して研究を行っていくことになりました。

#### 【ロラン島調査】

Baltic Sea Solutionsは、地域エネルギー事業開発のプロフェッショナル集団であり、これまでデンマークの地域エネルギー事業で典型とされてきた協同組合形式とはやや異なる手法をもちいていることがわかりました。今後、PhD Projectでさらに追っていきたいです。

#### 【マルメ市調査】

マルメ市は、都市における持続可能な発展をさまざまなかたちで実現していることがわかりました。100%自然エネルギーのモデル地区開発や大規模な太陽光・太陽熱の利用が行われており、それらは政治的イニシアティブが実現させた部分が多いということがわかりました。これも今後、PhD Projectでさらに追っていきたいです。

## 5. 対外的な発表実績

当初の計画から大幅にスケジュールがずれたため、現時点では対外的な発表実績はありません。今回調査をおこなったデンマーク・ロラン島の「グリーンエネルギー・ロラン・ファルター戦略」策定のプロセスと、スウェーデン・マルメ市の「ソーラーシティ・マルメ」のプロセスについてまとめたものをなんらかのかたちで発表したいと考えています。

## 6. 今後の展望

今回の調査研究・研修は、紆余曲折を経て、オールボー大学PhDコース進学に向けての準備とPhD Projectの予備調査という位置づけとなりました。「海外留学にトラブルはつきもの」と事務局菅波さんがおっしゃっていたように、当初予定していた受け入れ先からキャンセルされたことをはじめとして、多くのトラブルに見舞われながらも、なんとかオールボー大学への入学許可をとりつけ、PhD Projectの予備調査を行うことができました。

今後の展望としては、第一にPhD Projectでの研究のフォーカスをより明確にすること、第二にそのフォーカスに関連する先行研究をフォローすること（特に政治社会学的な環境研究）、第三に今回行った予備調査を手がかりとして、欧州・北欧で行われている地域エネルギー事業の事例をさまざまな前提条件のもとに情報収集することを考えています。

一点目については、2000年代後半に入り、欧州・北欧では自然エネルギー導入がますます加速しているのに対して、日本はますます停滞している状況にあり、その要因のひとつは国レベル・地域レベル・個別事業レベルでの政治的イニシアティブの違いにあると、今回の調査・研修を通じて感じました。この仮説のもと、そういったイニシアティブの生成と持続性の実態を明らかにする研究枠組みを立てたいと考えています。

二点目については、一点目で掲げた研究枠組みが依拠すべき先行研究として、日本と欧米の政治社会学的環境研究の動向をフォローしたいと考えています。具体的には、Andrew Jamison、Maarten Hajerらが論じているEcological Modernization、Green Businessなどの議論をフォローすることを考えています。

三点目については、今回の調査でいくつかの情報ネットワークにアクセスすることができたため、これを通じて各地で行われている地域エネルギー事業でのフィールドワークへとつなげていきたいと考えています。また、現場で生成されている経験・知識を学術的にまとめるだけでなく、それを使って現場になんらかの貢献ができるような「変化志向の研究」「行動志向の研究」を実践したいと考えています。

## 高木基金へのご意見

私のような若年研究者が海外の大学院博士課程に進学するには、受け入れ先のコンタクトや資金などの面で多くのハードルがあるということを身をもって知りました。十分に準備を整え、オールボー大学への進学が可能になったのは、高木基金の助成なくしては不可能であったと思います。今後、より高いレベルで科学を身につけるとともに、それが市民、社会にとって真に有益なものとなるような実践ができるよう、精進していきたいと思います。

## 7. 完了報告 英文概要

Recipient Name	FURUYA Shota
Belonging / Contact Address < 公表可能な問い合わせ先・ メールアドレスなど >	Institute for Sustainable Energy Policies / furuya_shouta@isep.or.jp
Theme of Research/Training	Research about Political Mechanism for Energy Paradigm Shift
Name of the Organization Providing Training < 研修の該当者のみ >	Aalborg University Department of Development & Planning

< 以下の空欄に前記 2 . に対応する内容を英文で記載して下さい。 >

In this time, the research and training was positioned as preparation for the enrollment to the PhD course of Aalborg University in Denmark and pilot study for my future PhD project after many twists and turns. After the initial host institution canceled me to host, I looked for other possibilities and finally Professor Andrew Jamison of Aalborg University welcomed me to supervise, and I joined his courses in Aalborg and conducted pilot research for future PhD project in February to March 2008 with the grant. (I will be enrolled in Aalborg University in May 2008)

Attended courses (“Politics of Sustainable Development” and “Theories of Sciences”), I learned the history and principal theory of social science regarding to environment in Europe and America, and I acquired contemporary research style like “Change oriented Research” or “Action oriented Research”. And I could join in the information network of the PhD students in Aalborg University, and I have a contact with a student who shares similar theme setting with me, we will collaborate in future.

As a pilot study for the future PhD project, I visited and interviewed Baltic Sea Solutions, which is a regional energy development company in Lolland-Falster in Denmark. Baltic Sea Solutions is a professional in regional energy project development, and their measure was different from typical Danish cooperative. I also visited and interviewed Malmö City Environmental Agency and contact person of the Solar City Malmö. Malmö City is promoting sustainable city development with 100% renewable energy model district or large scale PV and solar thermal installation, and they are realized large part with political initiative.

I view following three points for the future prospects; firstly I make explicit research focus of my PhD project, secondly I follow preceding studies regarding to my focus (especially political sociology regarding to environment), thirdly I collect information of regional energy projects conducted in Europe from the perspective of various regional or political conditions.

The supposed schedule was changed due to the troubles, and there is no output so far, but I'd like to put out the experience and knowledge gained in this research and training as a form of academic paper or presentation in international conference in future. And I also would like to put out “Changes” in actual society with my “Change oriented Research” and “Action oriented Research”.

< 以上です。ご協力ありがとうございました。 >